




国立病院機構の
シンボルマーク



独立行政法人国立病院機構
 **松江医療センター**
呼吸器病センター
 〒690-8556
 松江市上乃木5丁目8-31
 TEL (0852) 21-6131 FAX (0852) 27-1019
 URL <http://www.mmedc.jp/>
 発行責任者
 院長 事務代理 副院長
矢野 修一
 編集者
 事務部長 **上甲 尚史**



松江医療センター
マスコットキャラクター

- 名 前：松丸くん
- 住まい：松江医療センターをねぐらにしている
- 概 要：真っ白な熊でいつも病院を見守っている
病棟の白衣と松江城をかけてシロクマを
モチーフとしたキャラクター
オレンジ色の陣羽織は宍道湖の夕日をイ
メージしたものでシジミが泳ぎ回って
いるのがポイント
- 性 格：優しくきれいな好き
- 趣 味：掃除と踊り
- 好きな食べ物：メロン・島根和牛

松丸くん、生みの親と
ツーショット

もくじ

平成28年「新年のあいさつ」	2	平成27年度神経・筋疾患研修会に参加して	11
故徳島院長 祝御授章（瑞宝中綬章・従五位）	3	平成27年度院内感染対策研修会に参加して	11
ヨーロッパ呼吸器学会総会参加報告	3	継続教育担当者研修に参加して	11
教育研修部から 教育研修部の歩む道	4	がんサロンについて	12
松江医療センターふれあいまつりを開催して	5～7	各診療科・各部門職場紹介	12～14
第69回国立病院総合医学会(札幌)に参加して	7	新人医師紹介	14
第9回地域医療連携交流会を行いました	8	しじみ会（十月中秋号、十一月晩秋号）	14
第6回松江呼吸器セミナーを開催して	9	アレルギーについて	15
健幸スマイル教室好評開催中です	9	人事異動	15
島根県立松江農林高等学校インターンシップを開催して	10	開業医紹介コーナー	16
呼吸器疾患看護研修会に参加して	10	地域医療連携さだより	17
平成27年度がん看護研修会に参加して	10	外来診療表	18

基本理念 私たちは、真心と思いやりをもって良質な医療を提供します。





平成28年「新年のあいさつ」

副院長 矢野 修 一

新年あけましておめでとうございます。

去年は当院にとってまさに激変の年でした。4月13日外来駐車場完成により病院全体の新築が完了しグランドオープンに漕ぎ着けました。9月2日には新病院建設に尽力された徳島院長が逝去されました。10月17日ふれあいまつりで松丸くんを初お披露目致しました。年度当初、不調であった業績も徐々に回復し、皆さんのお蔭で後半より目標を達成する事ができました。

さてこの季節になると干支が気になりますが、干支の干は十干のことで、甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸の10種です。十二支も、古代中国で生まれたもので、惑星のうち最も尊い星である木星が約12年で天球を一周することから、天空の方角を12に分け、それぞれの方角の記号としています。干支は、本来は十干十二支を組み合わせたものです。十干の10×十二支の12=干支の60になるもので最初の「甲（きのえ）」と「子（ね）」を組み合わせた「甲子（きのえね）」から始まり、「癸亥（みずのとい）」まで60種類あります。

今年は丙申（ひのえさる、へいしん）です。申年の申は本来「しん」と読み、「のびる」や「もうす」という意味があります。申は「雷」

の原字であり「稻妻」を表した象形文字で、神の技という意味もあります。干支の申は猿とは関係のないものでしたが、庶民に十二支を浸透させるため、動物の名前を当てたものです。「申」はまた「呻」（しん:「うめく」の意味）で、果実が成熟して固まって行く状態を表しているとされています。申には病や厄が「去る」との云われもあり縁起の良いものとして神社などで祭られるなどしていますし、「猿に絵馬」のように取り合わせが良い喩えにも使われます。一方、「意馬心猿」とか「猿に烏帽子」、「猿の尻笑い」や「沐猴にして冠す」など悪い喩えもあります。

本年は病院機能評価受審もあり、病院のソフト面の充実を図って決して「沐猴にして冠す」にならぬように努力する必要があると考えます。「未」はまだ枝が伸びきらずにいる木の部分を描いたものとされ、果実が熟しきっていない未熟な状態とも言われています。今年の「申」が当院にとっても果実が結実する年となり名実ともにさらに飛躍する年にしなければなりません。

最後に今年一年が病院だけでなく皆さんにとっても「猿に絵馬」の如く、災いが去って良い年になりますようにお祈りいたします。

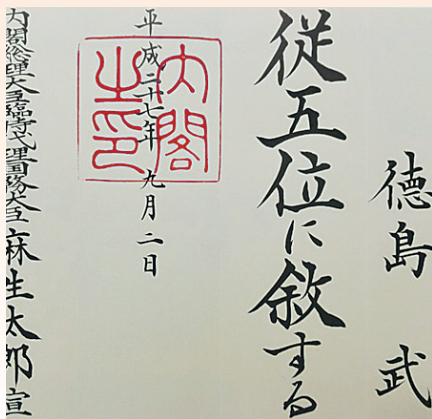
故徳島院長 祝御授章（瑞宝中綬章・従五位）

平成27年9月2日、徳島院長は彼岸の地へと旅立たれましたが、積年の功勞により死亡叙勲を授章され、12月2日に遺族に伝達しました。

このような栄えある章を直接、徳島院長に手渡すことが出来ず残念ですが、必ずや誇らしく思われていることと思います。未だに徳島院長の面影を感じる日々ですが、職員一同、徳島院長のご遺志を引き継ぎ、真心と思いやりを持って良質な医療を提供していきたいと思ひます。

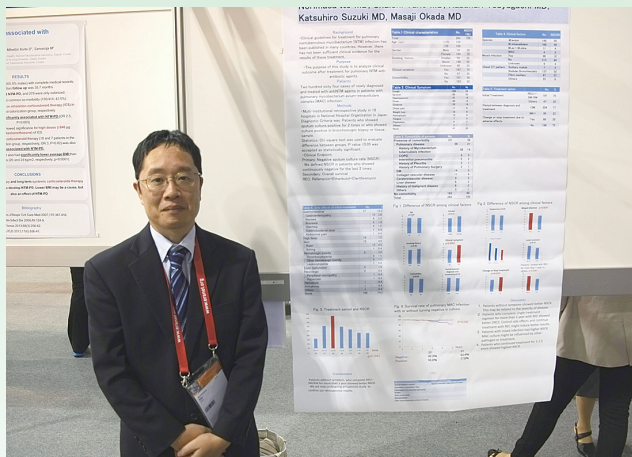
故徳島院長の名誉を称えると共に、ご冥福をお祈り申し上げます。

職員一同



ヨーロッパ呼吸器学会総会参加報告

呼吸器外科医長 伊藤 則正



2015年9月末にオランダのアムステルダムで開催されたヨーロッパ呼吸器学会総会に参加し、肺非結核性抗酸菌症に対する内科的治療の結果について報告を行いました。この研究は2012—2014年度国立病院機構ネットワーク共同研究、肺非結核性抗酸菌症に対する内科および外科治療法に関する実態調査と治療効果の解析という研究課題で、全国の国立病院機構およそ20施設から集積された症例をもとに検討を行ったものです。肺非結核性抗酸菌症は国内で肺結核の減少と反比例して増加している感染症で、人から人へは感染しませんが、薬剤が効きにくく、時に手術療法も行われます。

治療を行ったおよそ260人の患者さんの中で、痰から菌が出なくなる割合はおよそ7割で、治療効果はリファンピシン、クラリスロマイシン、エサンブトールという3種類の抗生剤を1年—1年半内服中止をせずに継続ができた患者さんが最も良いこともわかりました。喀痰から菌が検出されなくなった患者さんはそうでない患者さんより5年後の死亡が少ないこともわかりました。発表会場では多くの質問があり、この疾患への関心の高さを実感しました。今後も集積された症例の経過の追跡を続けていく予定です。



～ 教 育 研 修 コ ラ ム ～

教育研修部の歩む道

教育研修部長 門 脇 徹

あけましておめでとうございます。2011年11月から活動を開始した教育研修部も早いもので設立から4年以上の月日が流れました。大波小波いろんなことが起こってきましたが、ぶれずにまっすぐ歩んでこれました。これも皆さんのご理解・ご協力の賜物です。この場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございます。

当院の教育部門の立ち上げから現在の運営については、他の国立病院機構病院からも注目されています。昨年2月には国立病院機構宇都宮病院にお招きいただきこれまでの歴史と現在の運営状況などについて講演させていただきました。また、昨年10月に札幌で開催された国立病院総合医学会の看護師新人教育のシンポジウムにお招きいただきました。組織としての教育部門のあり方や方向性などについてディスカッションしてきました。

このような状況ですので「これまでの教育研修部はよかった」、と私は評価しています。しかし、難しくなってくるのは多分これからです。このままではいけない、という危機感を持っています。前号の「穴道湖」で紹介したように昨年10月から組織改編を行い、運営スタイルを変えています。これには私なりの意図があります。それは“より現場の声を拾って、全体教育に反映させ、個々のレベルをあげたい”というものです。私が院内教育に関わるようになったのが2009年の春。その時から続く運営スタイルがいわゆる“トップダウン”。組織を立ち上げて軌道にのせる、など物事を速やかに前に進めるのはこのやり方が有利です。これからも重要な決断に際してはこのスタイルが必要になるかもしれません。しかしながら、これでは人が育ちにくい。さらに運営する側の人材が入れ替わるような事態が起きてしまうと組織としての力が落ちる可能性が

あります。だからより現場の声を拾い、スペシャリストたちの声をより反映する“ボトムアップ”的教育研修部にしていかなくてはなりません。

“与えられたものをこなす”ことはトレーニングすればできます。全体としてそういう力は少しずつついてきていると思います。こういう力はこれまでのやり方でいいでしょう。しかしながら“その場で自分なりのベストの答えを出してその職種なりに判断する”力についてはもっとトレーニングが必要です。この力を職員につけてもらうには画一的ではなく、より行き届いた教育にしなくてははいけないのです。だからこそ教育研修部自体、現場のスペシャリストたちが“自分たちの教育を自分たちで考えて創る”スタイルへと脱皮していくことが必要なのです。

その先に何が見えるのか？うまくいけば明るい未来が見えてくると確信しています。おそらく、このスタイルが定着するには数年間かかるでしょう。そしてこの数年間は少ししんどいでしょう。教育を創る側だけが努力するのではなく、職員の皆さんに同じように頑張ってもらいたい、そう思っています。まずは自分を高めていくことが大事。そしてみんなが高めあうことが大事！

教育研修部はその支えになれば、と思っています。しんどいことの後には楽しいことが待っています。2016年も教育研修部は前進し続けます。ご支援のほどよろしくお願い致します。



松江医療センターふれあいまつりを開催して

総括 & フェスタ部門

「松江医療センターふれあいまつり2015」を開催しました。

庶務班長 岩井 睦司



例年恒例の行事としている「松江医療センターふれあいまつり2015」を平成27年10月17日(土)に開催しました。

今年は、メインテーマを「見よう！ 聞こう！ ふれあおう！」とし、地域住民の皆様へ健康・医療・医学へ関心を持っていただくとともに、松江医療センターをより身近に感じていただくことを目的として、駐車場には門型エアアーチを設置し、新外来管理診療棟の1階～3階を会場、駐車場を屋台広場として開催しました。

お陰様で、来場者数約600名と来場者も最後まで途切れることもなく大盛況となり多くの皆さんに当院を知っていただき、職員と親しくふれあい、いろいろなイベントをご家族と一緒に楽しんで頂けたと思います。

10時、矢野副院長の開会挨拶で幕を開けた「松江医療センターふれあいまつり2015」は、かわいらしいベレー帽とマーチングバンドの衣装を装った乃木保育所のみなさんによる鼓隊・旗による演奏にはじまり会場を盛大に盛り上げていただきました。

また、当院のマスコットキャラクターである「松丸くん」の実物のお披露目をさせていただき自己紹介等を行いました。

催し物として、健康部門の体験コーナーでは、美肌体験、リハビリ体操、肺年齢測定、顕微鏡体験、喫煙状況チェック、心肺蘇生、白衣体験&記念撮影、気管支ファイバースコープ体験を実施し、健康相談コーナーでは、医師相談、お薬相談を実施し、展示コーナーでは、栄養食展示、肺がんCT検診のすすめ、職場紹介(掲示・動画)、認定看護師の仕事、スタンプラリーと多彩な催しをさせていただきました。また、島根県の協力により「まめねっと啓発ブース」を設け多くの来場者楽しんでいただけたと思います。



健康部門でもスタンプラリーについては人気がありましたので下記のとおり説明させていただきます。

フェスタ部門

スタンプラリー

4階西病棟 看護師長 坂本 栄美子

今年初めて、「ふれあいまつり」でスタンプラリーを実施しました。先着100名の来場者の皆さんに、美肌やリハビリ体験をしたり、職場紹介や患者さんが作られた作品と2階の回廊に展示してある絵画を鑑賞して、6か所でスタンプを押してもらいました。全部で6個スタンプがそろったら、景品として松丸くんクッキーと缶バッチを贈呈させていただきました。当院のマスコットキャラクター松丸くんの景品は、「かわいい、欲しい！」と大好評でした。写真は、準備したスタンプ台、矢野副院長先生と筆者で景品のクッキーと缶バッチを持っているところです。私の身に付けているベストにも、松丸くんがプリントしてあります。



きらめき部門

療育指導室長 野 津 悦 子

きらめき部門は1階・2階・3階病棟に入院している患者さんと職員で実行委員会を作り、準備を進めていきました。ステージではどんな催しをしようか、展示の作品募集はどうやって呼びかけようか、ベッド離床が難しい方にまつりの雰囲気を楽しんでもらうためにどうしたらいいかなど、各病棟の患者さんから選出された実行委員の皆さんで話し合いを重ね、準備を行ない、当日を迎えました。

本番の、ステージでは入院患者さんやさくら保育園の園児さんの歌や踊り、ボランティアさんによる音楽演奏や社交ダンスなど様々なイベント、作品展示コーナーでは療育活動やリハビリで制作された数々の力作や患者さん約160名で制作した大きなモザイク画などの展示、病室のベッドサイドではボランティアさんが尺八やコーラスを披露してくださる巡回演奏などの盛りだくさんの内容の催しが繰り広げられました。会場が一体となったコンサートや「勇気をもらった」と感想をいただいた作品展示などそれぞれに趣向を凝らした内容になったと思います。

末筆ですが、今回のきらめき部門の運営ではイベントや患者さんがまつりに参加するために多くのボランティアの方々に協力していただきました。ありがとうございました。



市民公開講座部門

第10回 市民公開講演会を開催して

教育研修副部長 山 本 純 子

市民公開講演会は、がん診療連携拠点病院に準じる病院として、市民の皆様には肺がんを含め呼吸器疾患に対する知識を深めていただくために、毎年開催しております。多数の皆さんに気軽に足を運んでいただけるように、病院行事である「ふれあいまつり」に合わせて開催しています。今年も、当院で開催いたしました。お子様連れからご高齢の方まで約60名の来場者があり、会場ではサンドイッチと飲み物をお配りいたしました。

今年のテーマは、「肺がん内視鏡治療の最前線」とし、呼吸器外科領域の内視鏡治療、呼吸器内科領域の気管支鏡治療について、それぞれの専門医が当院で行っている最新治療を紹介いたしました。呼吸器外科の伊藤医長は、当院における肺がん手術の89%を占める胸腔鏡下手術について紹介し、より小さな傷で痛みが少なく回復が早いばかりでなく、合併症が少ない手術方法について説明をされました。呼吸器内科の神田医長は、気管支鏡検査はこれまでの方法と違い苦痛が少なく安全な方法で行えることを冒頭に説明され、当院が行っている気管支内超音波や特殊器具を用いた最新の気管支鏡検査を紹介されました。治療については、気道狭窄の治療として再び注目された硬性鏡について、海外の学会での受賞演題も含め治療法について解説されました。

講演会をきっかけに市民の皆様が当院の取り組みを理解して頂き、「呼吸が苦しくなったら松江医療センターへ！」をいつでも思い出してくださることを願っております。



模擬店部門

栄養管理室長 高山伸之

模擬店部門は、外部からはたい焼き、パン屋さん、私たち職員と1階病棟の患者さん、ボランティアの方で焼きそばやフランクフルトの販売、スーパーボールとヨーヨーすくい等を出店いたしました。当日は少し日差しがきついくらいの秋晴れの中、昼前は焼きそばやフランクフルト販売でかなりの列となってしまう、あせりましたが模擬店部門一丸となり販売させていただきました。綿菓子やスーパーボール・ヨーヨーすくいは子供さんにも好評でした。結果は、一部を除き外部業者さん含め完売。反省点も多々ありますが、今回沢山の方にご購入いただき誠にありがとうございました。



第69回国立病院総合医学会(札幌)に参加して

理学療法士 車田良介

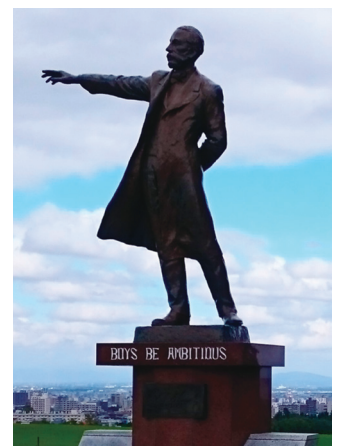
平成27年10月2日(金)から2日間に渡り、第69回国立病院総合医学会(札幌市)に参加させて頂きました。今年の総合医学会は台風21号の影響で、北海道では突風と局地的な豪雨に見舞われていました。幸い当日の夜に雨が降る程度で、自身の心以外は大きな混乱もなく過ごすことができました。

今回、呼吸器疾患の患者さんに対して、体外式陽陰圧式人工呼吸器(BCV)を使用し体位ドレナージやアクティブサイクル呼吸法などの理学療法手技を取り入れることで、より有効な排痰効果が得られた症例を口演で報告させていただきました。登壇し会場を見渡すと、当院の先輩、米子医療センターをはじめ、お世話になっている他院の方々が応援に来てくださっていました。緊張のなかでのスタートでしたが、無事報告を終えることができました。座長の鋭い質問に、怯んでしまう場面もありましたが、新しい知見を得ることができたと思います。

学会後の国立病院理学療法士協議会、懇親会にも参加し、終始緊張していま

したが楽しく貴重な時間を過ごすことができました。緊張・興奮の連続で、普段の脈拍数を大きく越えた、浮足立つ2日間ではありましたが、また一つ二つ成長できた学会だったと思います。クラーク博士が「Boys, Be ambitious.」と言っていたように指の指した方向(患者さんの笑顔)を目指して今後も精進していこうと思います。

最後に学会参加にあたり、協力して下さった呼吸器内科木村雅広先生、不在中に患者さん対応して下さいましたリハビリテーション科の皆さん、そして、温かい目で見送ってくださった患者さんに深く感謝申し上げます。



第9回 地域医療連携交流会を行いました

地域医療連携係長 戸野佳子

地域の先生方39名のご出席をいただき、平成27年10月8日、地域医療連携交流会を行いました。

交流会に先立ち、肺疾患懇話会を開催しました。目次外科医長の【当院における胸腔鏡下肺手術】の講演は参加された先生方から、「実際の手術動画供覧は他科医へのよいアピールになった」「最近の流れがよくわかった」との好評をいただきました。



続いての懇親会は、9月に他界された徳島前院長への哀悼の気持ちがあふれる会となりました。矢野副院長から、『職員一同が力を合わせて頑張っていこう』という挨拶に続き、島根県医師会常任理事 森本紀彦先生からは、前院長の功績を称えるお言葉を賜り、松江市医師会会長 野津立秋先生からは、前院長の逝去を悼む曲目を会場に流す演出をしていただきました。

また、両先生から『よりよい連携で地域医療の充実につなげていきたい』とお言葉をいただきました。



島根県医師会常任理事
森本紀彦先生

続いて当院診療科の紹介と挨拶を各診療科代表医師からスライドを用いて行いました。そして、佐野内科循環器科医院佐野和也先生、あさひまちクリニック 小林淳子先生、片山内科胃腸科医院 片山俊介先生、はまもと内科クリニック 濱本直治先生から、当院とのかかわりや、今後のご期待・ご要望のお言葉をいただきました。



松江市医師会会長
野津立秋先生



佐野内科循環器科医院
佐野和也先生



あさひまちクリニック
小林淳子先生



片山内科胃腸科医院
片山俊介先生



はまもと内科クリニック
濱本直治先生

会全体を通して、地域の先生方との食事をしながら、顔を見ながらの交流は連携を深めるためには重要で、お互いを信頼し合える連携につながっていくと思い、今後も継続していきたいと感じました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。地域医療連携室では今後も丁寧・迅速をモットーに努力してまいります。どうぞよろしくお願いたします。

各診療科
紹介・挨拶



矢野修一副院長



懇親会



池田敏和統括診療部長



足立芳樹臨床研究部長



「第6回松江呼吸器セミナー」を開催して

教育研修副部長 山本 純子

平成27年12月5日（土）、松江医療センターにて第6回松江呼吸器セミナーを開催いたしました。

当院は、呼吸器病センターとしての専門性を生かし、医療従事者の方々を対象とした松江呼吸器セミナーを平成22年から開催しています。毎年、呼吸器疾患における問題についての対策を取り上げてきました。平成25年より、3学会合同呼吸療法認定士の認定取得・更新に必要な点数が取得可能な講習会としても認められ、今年は138名の申込みがありました。

今回は「キワメル！非侵襲的呼吸管理～NPPVを成功させるひと工夫～」というテーマで下記の4名の演者の方に、それぞれの立場から実際に臨床で関わっている呼吸管理について講演していただきました。当院のRST（呼吸サポートチーム）活動が紹介され、多職種が専門性を生かし、チームで行う呼吸管理の有用性が説明されました。

- | | | |
|-------------------------|----------------|-------------------|
| ①「BCV×NPPV」 | 呼吸器内科医師 | 西川 恵美子 |
| ②「ハイフローセラピー（HFT）の可能性」 | 主任臨床工学技士 | 笠置 龍司 |
| ③「リハビリにおける非侵襲的呼吸管理の有用性」 | 理学療法士 | 3学会合同呼吸療法認定士 加藤 保 |
| ④「コラボでうまくいく！これからのNPPV」 | 呼吸器内科医長・教育研修部長 | 門脇 徹 |

講演に合わせて、人工呼吸器の展示を行い、慢性呼吸器疾患看護認定看護師がNPPVマスクフィッティングの相談に応じました。

また、当院に今年誕生したマスコットキャラクター「松丸くん」の着ぐるみもお出迎えをし、セミナーを盛り上げてくれました。

ご講演いただきました演者の皆様、準備や運営にご協力いただきました職員の皆様、本当にありがとうございました。



健幸スマイル教室好評開催中です

2階病棟 副看護師長 柳 浦 京子

看護広報委員会では、入院患者さんや外来患者さんとそのご家族に、健康で幸せな毎日を送っていただき、笑顔で生活して頂けることを願い、毎月第3月曜日に「健幸スマイル教室」を開催しています。興味のある方はぜひ参加してみてください。

日時：毎月第3月曜日 15時～15時30分 場所：5階病棟 研修室

日程	1月18日	2月15日
テーマ	リラクゼーション	転倒防止について
講師	PT	看護師
日程	3月28日	
テーマ	がん化学療法について	
講師	認定看護師	



島根県立松江農林高等学校インターンシップを開催して

4階東病棟 看護師 杉野 彩香

平成27年10月13～15日に島根県立松江農林高等学校の生徒さんを対象としたインターンシップを開催し、総合学科第2学年5名が参加されました。1日目は病棟や各部署の見学、看護技術の体験を行いました。2～3日目の午後には、4階西病棟と4階東病棟で、実際に患者さんの看護を体験していただきました。私は4階東病棟の担当として、生徒さんと一緒に患者さんのベッドサイドで、「伝の心」という意思伝達装置を使用してコミュニケーションをはかり、移乗・移動介助やバイタルサイン測定などを体験していただきました。生徒さんは、普段関わる機会のない患者さんとのコミュニケーションに、最初は緊張した様子でしたが、だんだんと笑顔が見られるようになりました。患者さんも楽しそうに話をしておられました。そして「看護師さんの仕事を近くで見て、とても大変そうだけど、看護師になりたいという思いが強まった。」等の感想を聞くことができました。また、ちょっとした疑問についても看護師に質問してくれ、私自身、もっといろいろな事に疑問を持ちながら看護を行っていきたくと、改めて感じることができました。



呼吸器疾患看護研修会に参加して

5階病棟 看護師 足立 抄子

今回は、山口宇部医療センターで開催された「呼吸器疾患看護研修」に参加させていただきました。5階病棟の特色でもある手術前後の看護についての知識を深めることと、他病院での現状を知り、当院での看護に生かしていきたいというのが受講動機でした。

手術中に撮影した動画を使った講義は術式等がイメージしやすく、また慢性呼吸器疾患看護認定看護師の講義を聴いて、術前の呼吸訓練の必要性や患者さんが正しい知識を得る場を確実に提供していくことの重要性を理解しました。

また、手術を受けられる患者さんの手術に向かう気持ちをくみ取り、患者さんだけでなく私たちも一緒になって手術にいどんでいけるような関係を築き、看護を提供できるような病棟でありたいと感じました。

今回の研修を通して得た知識を今後の看護に取り入れ、よりよい手術前後の看護が提供できるよう努めていきたいと思えます。



平成27年度がん看護研修会に参加して

4階西病棟 看護師 伊達 知美

平成27年10月27～30日まで、国立病院機構 呉医療センターで行われた平成27年度がん看護研修会に参加させていただきました。私は4階西病棟に異動してから約1年が経ち、緩和ケアチームの一員として活動していますが、がん看護や緩和ケアに関する知識の不足を感じていました。緩和ケアカンファレンスの場において、対象となる患者に関する問題点や困っている内容を上手く相談出来ていないと以前より感じていました。

今回の研修で、がんの総論から終末期など様々な専門的な内容の研修を受講することが出来ました。特に、今回目的としていた緩和ケアに関する内容に関しては、がん看護専門看護師による講義や緩和ケア病棟の見学、実際の看護について話を聞いたことは、私にとってとても貴重な経験となりました。

今後は学んだ知識と情報をスタッフへ提供するとともに、緩和ケアチームのカンファレンスの場で対象の患者さんの緩和ケアについて多職種に積極的に相談し、看護に活かしていきたいと思えます。

平成27年度神経・筋疾患研修会に参加して

4階東病棟 看護師 品川 沙希

寒さも一段と厳しくなってきましたが、平成27年10月28日～30日に国立病院機構 南岡山医療センターで行われた、平成27年度神経・筋疾患研修会に参加してきましたので報告をします。

私は研修会参加のお話を頂いた時、神経・筋疾患看護について学べるよい機会だと思ったと同時に、まだ看護師3年目の自分がどれだけ病棟内での日頃の神経難病看護を中国四国の他病院の方々に発信でき、情報交換ができるか不安になっていました。

今回、実際研修会に参加して、3日間看護部だけでなく、リハビリテーションや在宅医療など、あらゆる部門からの専門的な視点での神経・筋疾患分野の講義が聴け、当院の取り組み（パートナーシップ）についても発信できたので参加してよかったと思いました。

また、今後の看護に活かせるヒントもたくさんもらったので、研修会での学びを今後の看護に十分活かし、より質の高い看護が提供できるようにしていきたいです。



平成27年度院内感染対策研修会に参加して

1階病棟 看護師 北村 美雪

平成27年11月11日から13日の3日間、国立病院機構 熊本医療センターで開催された院内感染対策研修に参加しました。北は青森、南は沖縄と全国から82名の看護師、医師、薬剤師、検査技師と他職種の参加があり関心の高さに驚きました。

私は、今年4月から初めてリンクナースとして活動し始め、これはなぜ？という思いを感じることがありました。今回この研修に参加し、今までもこれから先もこんなにその道のエキスパートの方の講義を受講できる機会は2度とないかもと思える程、大変充実した時間でした。「知らない事が多すぎる」と改めて痛感し、自分の置かれている立場や今後の自分の進むべき道、すべき事が明確にもなりました。リンクナースは感染対策チームと現場のつなぎ役、情報交換の要、スタッフの役割モデルとなり、感染管理認定看護師と共に感染対策に努めていきたいと思いました。

感染を予防することが「患者を守る」という事であると理解し、スタッフにいかに興味を持たせ同じ思いで対策を講じることができるかを考え活動していきたいです。知識は自分で習得するもの、習得しても使わないと意味がない、解決するために努力し、まずは自分が正しい方法で実践する事に努め、日々活動していきたいと思います。貴重な研修に参加させて頂きありがとうございました。



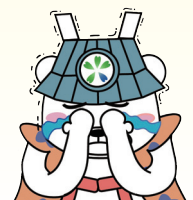
継続教育担当者研修に参加して

3階病棟 副看護師長 川谷 みのり

平成27年11月11日～13日川崎市の関東労災病院で行われた、継続教育担当者研修に参加させていただきました。当院の看護部教育委員会で、今年度の教育計画として10年目看護師研修を新たに企画し、去る10月に実施していました。そういった経過からも、キャリア中期といわれるベテラン看護師、または中堅看護師の教育について私自身の関心度が高かったこともあり、まさに“渡りに船”的な研修の機会でした。

今回の研修では新人看護師もキャリア中期の看護師も、それぞれの看護師としての発達課題があり、看護師各自のレディネスに応じた教育支援が必要であること、また教育委員会の研修は、自己学習では実現できない学習目標を達成するための手助けの場であることなど、看護師の教育について多く学ぶことができました。

私たち看護師は専門職業人として、生涯にわたる主体的な自己学習を継続することは責務であるといわれています。本研修で学び得たことは、教育委員会の活動だけでなく、後輩たちが“看護師になってよかった”と実感できる支援に活かしていきたいです。



がんサロンについて

外来副看護師長・がん化学療法看護認定看護師 岩田 由佳里

毎月1回、第1金曜日に「がんサロン・つどい」を開催しております。前年度までは参加者が減少かつ固定しておりましたが、“互いに元気になれる”そんな場作りを大切に、今年度より運営方針を見直したところ、参加者も増え賑やかになりました。短時間ではありますが、自由に話しあう交流会や季節に応じた催し物を計画しております。7月には七夕会を開き、12月には美味しいプチケーキを食べながらクリスマスカードを作成し、入院患者さんに配布したりと和やかなムードの中楽しく開催しております。参加される方は、抗がん剤治療中の方、治療が終わり経過観察中の方、手術後の方などさまざまです。日頃より私たち医療スタッフは、患者さんやご家族の気持ちに寄り添うよう努めていますが、やはり当事者でなければわかり合えないこともあると思います。サロンに参加し、互いに支え合う力を得られるのではないかと考えています。今後も温かいコーヒーを入れてお待ちしておりますので、気軽にご参加いただければと思います。



各診療科・各部門職場紹介

看護部長 武海 栄

私は、患者を中心に据え、その周りで手を取り合い協力し合う医療スタッフの中で、医師がリーダーシップを発揮し、看護師がその調整役としての役割を果たすべきと考えています。そのためには、経年別研修にも力を注ぎ、看護師をスペシャリスト（専門・認定看護師、管理者、教員等）またはジェネラリストとして育てていかなければなりません。幸いにも、当院には教育研修部というしっかりとした組織があるので、看護部の教育も充分行われる体制が整っています。「人は城、人は石垣、人は堀、情けは味方、仇は敵なり」と武田信玄が言っているとおり、個人の力や特徴を掴み、個人の才能を充分発揮出来るような環境・組織作りに努めることが、看護部に求められている最も優先されるべき課題と考えています。

病院理念の中に謳ってある「真心と思いやり」を持ち、看護部の理念である「誠実で信頼される看護」を実践するためには、ホスピタリティの精神を身に付け、いかに相手に関心を持つかが問われます。「相手」とは、「患者であり、家族であり、職員同士」と考えます。相手と向き合い、分かり合うことが重要です。そのためにも、「相手を尊重しながら、自分の考えがきちんと伝えられる」看護職員が育っていくように誠心誠意努力して参りますので、皆様のご支援とご協力をお願いいたします。



看護部



看護部長・副看護部長・看護師長・副看護師長



平成27年度新採用者

看護部長室

看護部の司令塔として日々奮戦しています。

モットーは

- 1に笑顔
- 2に笑顔
- 3. 4がなくて
- 5に体力の精鋭揃いです。

フットワークの良さで、病院全体のどんな困り事にも対応可能。ご用命をお待ちしております。

見よう!

聞こう!



丸田看護副部長



武海看護部長

メッセン山根

クラーク長田



ふれあおう!



1階病棟



1階病棟は、筋ジストロフィーと神経難病（主にALS）の方が入院されています。

多くの神経難病の患者さんが人工呼吸器を装着し生活されています。週2回のミスト入浴、院内行事の文化祭やコンサートにも参加していただき、楽しんでおられます。

筋ジストロフィー患者さんは、車椅子で動き、自由に趣味を楽しんでおられます。

これからも心豊かに生活していただけるよう支援していきます。





2階病棟

2階病棟は、重症心身障がい児(者)と筋ジストロフィー患者の方が入院されている病棟です。

人工呼吸器を装着されている方が多く、合併症の予防や安全管理に心がけています。ほとんどベッド上生活である患者さんが多いですが、車椅子に乗ってデイルームでの療育や文化祭・外出行事・学校教育などにも参加していただいています。



新人医師紹介



まつ 村 わたる
松 村 渉

①診療科：小児科

②経歴：

平成20年鳥取大学卒業

平成20年4月～平成22年3月 香川小児病院 初期臨床研修医

平成20年4月～平成23年1月 鳥取大学医学部附属病院 脳神経小児科

平成23年2月～平成25年3月 島根県立中央病院 小児科

平成25年4月～平成27年3月 鳥取県立厚生病院 小児科

平成27年4月～平成27年10月 鳥取大学医学部附属病院 脳神経小児科

③専門：小児神経

④趣味：ウッドベース、ロードバイク

⑤ごあいさつ：11月より小児科に赴任させていただいております松村と申します。病院全体がものすごくきれいになっていてびっくりしました。至らない点も多々あると思いますが、よろしく願いいたします。



しじみ会 【十月中秋号、十一月晚秋号】

リハビリテーション科 作業療法士

- ・ 千し柿や 寒風さらし つまみ食い
「となりの住人」
- ・ 皆さんの お陰でできた コンサート
思いを込めた ねたっきりの詩 「中ちゃん」
- ・ 爽やかな 空見上げれば カ涌く
「京の静さん」
- ・ 朝夕の 冷たい風に 秋を知る 「Nさん」
- ・ ふるさとの 畦道彩る 彼岸花
燃えて知らせる 秋の空 「愛佳さん」
- ・ 秋空を キャンパスがわりに 飛行雲
「すなびさん」
- ・ 車椅子 落ち葉ふむ音 秋深し
「カラス貝さん」
- ・ 宍道湖に 霧に包まれ しじみ船
「ふくろうさん」
- ・ 聞こえる ラジオ体操 夏の朝
「三度笠さん」
- ・ 歯磨きで 指摘を受けて 技磨く
「学生森廣さん」

アレルギーについて

臨床検査技師長 平内 洋一

●アレルギー反応のメカニズム

細菌やウィルスなどの異物が私たちの体に侵入した場合にはTh1、Th2という2種類の免疫細胞がバランスよく体の中で働くことで免疫反応が起こり、「抗体」という武器を産生して異物を排除することで体を守ります。

しかし、そのバランスが崩れ、免疫反応が特定の食べ物や、花粉など本来、体には無害のものに対して過剰に働き、攻撃することで、様々の症状を引き起こす病気がアレルギーです。

例えば、私たちの体に花粉（抗原）が入ってきた場合、これが異物として免疫細胞が認識すると、排除するための抗体（特異的IgE）が作られます。この抗体はマスト細胞という細胞にくっつきます。再び花粉が入ることによりマスト細胞がこわれ、化学伝達物質（ヒスタミンなど）を出します。この化学物質が目や鼻の細胞を刺激することにより、かゆみ、くしゃみなどの症状が発生します。

●花粉症（アレルギー性鼻炎）

日本人成人の5人に1人が悩まされている病気が花粉症です。

主な花粉症の症状

			
くしゃみは花粉が飛んでる間じゅう続きます。	水のようなサラサラとした鼻水が、かんでもかんでも出てきて何日も続きます。	両方の鼻が詰まって息が出来なくなり、夜、鼻が詰まって寝不足になることも	目が痒くなり、涙がぼろぼろ出ます。まぶたが腫れて目が開かなくなることも

★近年、スギ花粉だけでなくヒノキ花粉、ブタクサなどによる花粉症も増加の傾向にあります。症状が3ヶ月も4ヶ月も続き、初夏のころまでであれば、ヒノキ花粉による花粉症も併発している可能性があります。

●IgE

IgEはγグロブリン（IgG, IgA, IgM, IgD, IgE）という体内で免疫をつかさどる蛋白質の1つで、主に、アレルギー性疾患（花粉症、金属アレルギー、食物アレルギー、喘息など）や寄生虫感染症に関わっています。

また、アレルギーの原因となっている特定の物質（アレルゲン）に反応するIgE（特異的IgE）を測定することでアレルギーの原因を調べることが出来ます。

最近では、建物の気密性向上などにより、ダニやカビ、ホコリによるアレルギーが増加傾向にあります。

アレルゲン検査は血液で調べることが出来るので、疑わしい症状のある方は病院で検査されることをお勧めいたします。



人事異動

発令月日	事項	職名	氏名
H27.11.1	採用	小児科医師	松村 渉（まつむら わたる）
H28.1.1	採用	呼吸器外科医長	阪口 全宏（さかぐち まさひろ）

開 業 医 紹 介 コ ー ナ ー



当院は、平成18年11月にJR松江駅前ビル2階に内科クリニックとして開業し、平成21年4月から産婦人科の豊嶋直美医師とともに、医師2名、看護師3名、助産師1名、事務員4名で診療にあたっています。

患者さんは、場所柄近隣に通勤されている方が多く、女性が約8割です。とくに消化器疾患の診断、治療、女性のプライマリーケアに力を入れています。

松江医療センターには、特に呼吸器内科、外科、神経内科に紹介させていただいていますが、いつも丁寧で的確な診療をしていただき助かっています。

院長 小林 淳子



あさひまちクリニック
(内科・産婦人科)
院長 小林淳子

診療時間

月～土 午前 9:00～13:00

午後 15:30～18:30

休診 木曜日と土曜日の午後・日・祝

〒690-0003

松江朝日町476-7 2F 電話 0852-61-3006

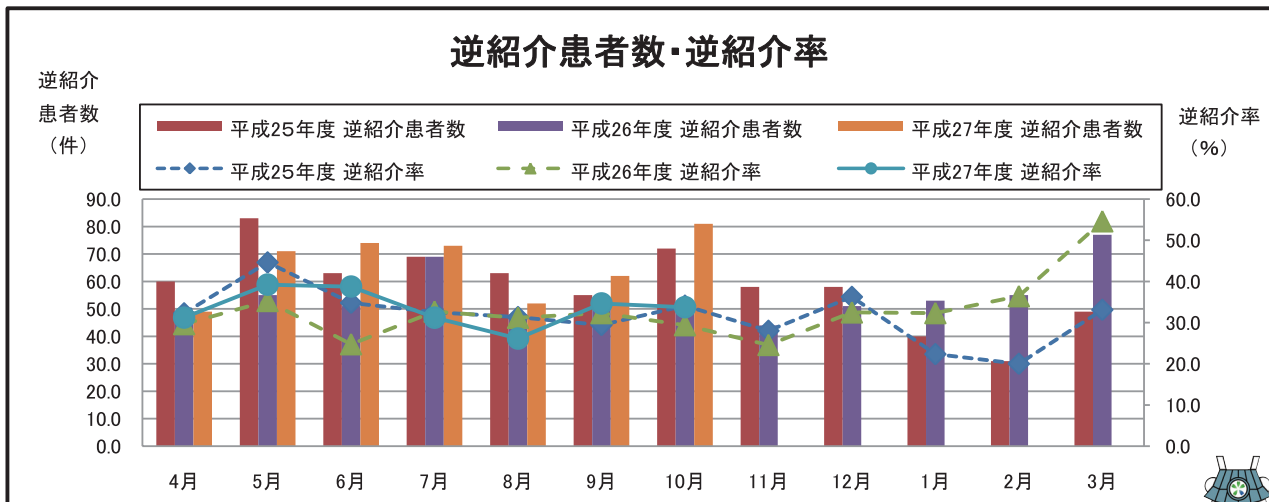
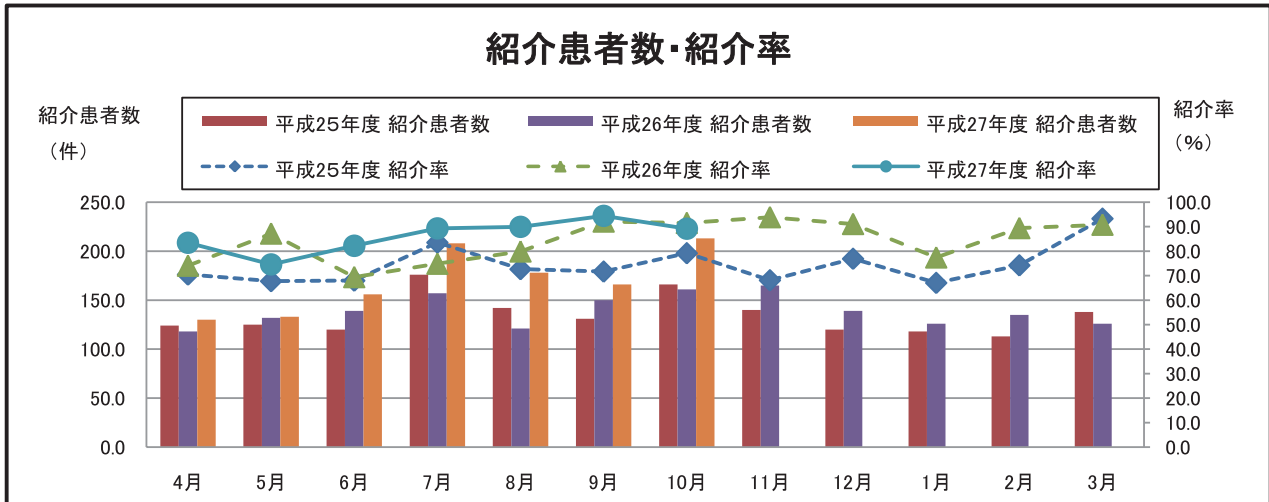


地域医療連携室だより 第22号

2016年1月

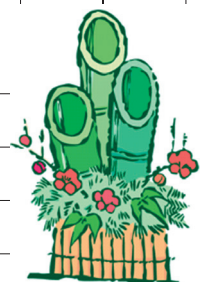


1. 紹介患者数・紹介率／逆紹介患者数・逆紹介率の推移



2. 退院支援データ 毎週対象病棟で退院支援カンファレンスを実施しています。

退院支援患者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月			
退院先	48人	50人	40人	55人	33人	50人	66人	60人			
在宅	7人	16人	14人	17人	12人	14人	23人	18人			
施設	2人	4人	3人	1人	0人	1人	1人	1人			
病院	2人	0人	2人	1人	0人	3人	2人	2人			



※逆紹介率とは、当院から開業医さんや他の病院へ紹介させて頂いた患者さんの割合です。

逆紹介率 = 逆紹介患者数 ÷ 初診患者数 (休日、夜間の救急患者数を除く。)



外来診療表

お気軽にご相談下さい

平成28年 1月 4日現在

診療科	日	月	火	水	木	金	専門領域	
呼吸器内科	曜日	神田	小林	木村	門脇	池田	【呼吸器内科】 矢野 修一 池田 敏和 小林賀奈子 木村 雅広 門脇 徹 神田 響 多田 光宏 岩本 信一 西川恵美子	
		多田	神田	岩本	西川	木村		【副院長】呼吸器一般（肺循環・肺がん・結核他） 【統括診療部長】呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般
		矢野	門脇	池田	矢野	小林		
神経内科			下山		足立		呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般	
		隔週 鳥大医師						
鳥取大学医学部医師の診療予定日(隔週火曜日) 1月5日・1月19日・2月2日・2月16日								
外科		伊藤		目次		阪口 松居	多田 光宏 岩本 信一 西川恵美子	
小児科	発達 専門外来	久保田 (予約)	齋田 久保田 (予約)	齋田 (予約)	久保田 齋田 (予約)	齋田 (予約)	【神経内科】 足立 芳樹 下山 良二	
	予防接種		(予約)					【臨床研究部長】神経内科 神経内科・リハビリテーション
特 殊 外 来	肺がん検診	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	【外科】 目次 裕之 伊藤 則正 阪口 全宏 松居 真司	
	睡眠時無呼吸 外来				呼吸器内科 担当医(予約)			呼吸器外科・一般外科 呼吸器外科・一般外科 呼吸器外科・一般外科 呼吸器外科・一般外科
	息切れ 外来		呼吸器内科 担当医(予約)					
	喘息 アレルギー外来					池田 (予約)		
	咳嗽外来					池田 (予約)	重症心身障害・小児神経・摂食機能障害 発達障害・重度心身障害	
	禁煙外来				毎週木曜日 呼吸器内科 担当医(予約)			【麻酔科】 西村友紀子
	アスベスト 外来		小林 (予約)	木村 (予約)	門脇 (予約)			診療時間 8:30~17:15 受付時間 8:30~11:30 自動再来受付 8:00~11:30
	嚔下障害 外来		下山 (予約)				 独立行政法人 国立病院機構 松江医療センター 呼吸器病センター 〒690-8556 松江市上乃木5丁目8番31号 電話 (0852) 21-6131(代) 医療連携室直通電話 (0852) 24-7671 医療連携室 F A X (0852) 24-7661	
	神経難病 外来		下山		足立芳樹			
	筋ジストロフィー 専門外来				下山 (予約)			
セカンド オペニオン 外来	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)			
その他								

特 殊 外 来	小児科発達 専門外来	診療日：毎週月～金曜日 9：00～12：00（要予約） 内容と特色：ごとばや運動の発達の遅れ、低身長などの発育の異常、ひきつけなどの疾患に対する診断・治療療育相談を行っています。投薬、理学療法など通常治療のほかデイケアでの遊戯療法も行っています。
	肺がん検診	診療日：毎週月～金曜日 15：00～17：00（要予約） 内容と特色：ヘリカルCTを使用し、小さな肺がんも発見できます。料金5,400円
	睡眠時無呼吸 外来	診療日：毎週木曜日 14：00～16：00（要予約） 内容と特色：いびき、睡眠時無呼吸症候群の診断治療を行います。
	息切れ外来	診療日：毎週火曜日 13：00～15：00（要予約） 内容と特色：息切れの診断と治療を行います。
	喘息 アレルギー外来	診療日：毎週月・金曜日 9：00～12：00（要予約） 内容と特色：成人気管支喘息、花粉症。個人個人に合わせた予防法、日常生活指導から最新の治療まで。
	慢性咳嗽外来	診療日：毎週月・金曜日 9：00～12：00（要予約） 内容と特色：3週間以上長引く咳（せき）や喉の異常感でお悩みの方。
	禁煙外来	診療日：毎週木曜日 10：00～12：00（要予約） 内容と特色：禁煙を希望される方の検査、診断と相談に応じます。
	アスベスト外来	診療日：毎週火・水・木曜日 8：30～11：00（要予約） 内容と特色：石綿（アスベスト）曝露による肺障害を発見するための検査と診断を行います。
	嚔下障害外来	診療日：毎週火曜日 9：00～12：00 嚔下障害外来（要予約）
	神経難病外来	診療日：毎週火・木曜日 9：00～12：00 神経難病外来
外 来	筋ジストロフィー 専門外来	診療日：毎週木曜日（予約＝指導室まで）9：00～12：00 内容と特色：筋ジス病棟医が診療に当たります。診断から在宅ケアのための医療や介護・福祉サービスの紹介など専門的、総合的外来です。在宅患者に必要な定期的精査短期入院（筋ジスドック）も受け付けています。
	セカンド オペニオン 外来	診療日：（完全予約制）紹介状が必要です。 内容と特色：呼吸器・呼吸器外科・神経内科・小児科（筋ジス）の専門医（医長）が担当いたします。